

作成日	2015/2/20
改訂日	2018/4/10

安全データシート (SDS)

1. 製品及び会社情報

製品名 : ネオグロー浸透液 F-4A-B プラス エアゾール

会社名 : 栄進化学株式会社
 住 所 : 茨城県常総市 内守谷町 4689-1
 担当部署 : 茨城工場 化学技術課
 電話番号 : 0297-27-9507 (緊急時連絡先)
 FAX 番号 : 0297-27-9508
 整理番号 : SNF-004-02A
 推奨用途及び使用上の制限 : 浸透探傷試験用 蛍光浸透液 水洗性

2. 危険有害性の要約

【GHS 分類】(分類されないもの、及び区分外は省略)

物理化学的危険性 : エアゾール 区分 1
 健康に対する有害性 : 眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性 区分 1
 : 特定標的臓器毒性(単回ばく露) 区分 3 (麻酔作用)
 : 特定標的臓器毒性(反復ばく露) 区分 2 (呼吸器、肝臓)
 環境に対する有害性 : 水生環境有害性(急性) 区分 2
 : 水生環境有害性(長期間) 区分 2

【GHS ラベル要素】

絵表示 :



注意喚起語 :

危険

危険有害性情報 :

極めて可燃性又は引火性の高いエアゾール
 高压容器: 熱すると破裂のおそれ
 重篤な眼の損傷
 眠気又はめまいのおそれ
 長期にわたる、又は反復ばく露による臓器(呼吸器、肝臓)の障害のおそれ
 長期継続的影響によって水生生物に毒性

注意書き :

- 《安全対策》
- ・ 全ての安全注意(SDS等)を読み理解するまでは取り扱わないこと。
 - ・ 熱/火花/裸火/高温のもののような着火源から遠ざけること。一禁煙
 - ・ 裸火又は他の着火源に噴霧しないこと。
 - ・ 使用後を含め、穴を開けたり燃やしたりしないこと。
 - ・ 屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること。
 - ・ ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。
 - ・ 取扱い後は手をよく洗うこと。
 - ・ この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。
 - ・ 屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。
 - ・ 環境への放出を避けること。
 - ・ 保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。
- 《応急措置》
- ・ 吸入した場合: 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
 - ・ 気分が悪いときは、医師に連絡すること。
 - ・ 皮膚(又は髪)に付着した場合: 汚染された衣服を脱ぎ、多量の水と石鹼で洗うこと。
 - ・ 眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを装着して容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。直ちに医師に連絡すること。
 - ・ 火災の場合: 粉末消火器、炭酸ガス等の適切な消火方法をとること。
 - ・ 漏出物を回収すること。
- 《保管》
- ・ 容器を密閉して、涼しく換気の良いところで施錠して保管すること。
 - ・ 日光から遮断すること。40℃以上の温度にばく露しないこと。
- 《廃棄》
- ・ 内容物や容器は、国際/国/都道府県/市町村の規則に従って廃棄すること。

3. 組成、成分情報

単一製品・混合物の区分 : 混合物(エアゾール製品)

化学名(成分名)	含有量(wt%)	CAS No.	化管法* ¹	化審法* ² (既存)	安衛法* ³
内容液					
炭化水素油 A	15~25	非公開	非該当	非公開	非該当
炭化水素油 B	5~15	非公開	非該当	非公開	非該当
可塑性溶剤 A	0~10	非公開	非該当	非公開	非該当
可塑性溶剤 B	0~10	非公開	非該当	非公開	非該当
グリコールエーテル (ジエチレングリコールモノフェルエーテル)	0~10	非公開	非該当	非公開	224 の 3
非イオン界面活性剤 A	10~20	非公開	非該当	非公開	非該当
非イオン界面活性剤 B	5~15	非公開	非該当	非公開	非該当
非イオン界面活性剤 C	0~10	非公開	非該当	非公開	非該当
蛍光染料	0~3	非公開	非該当	非公開	非該当
噴射剤					
DME(ジメチルエーテル)	40~50	非公開	非該当	非公開	非該当

- * 1 化管法 : 化学物質管理促進法=PRTR 法における分類及び政令番号
- * 2 化審法 : 化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律における分類及び官報公示整理番号
- * 3 安衛法 : 労働安全衛生法 施行令 第 18 条の 2 別表第 9(名称等を通知すべき有害物)の政令番号
- ・ 充填比率 : 内容液 210mL 噴射剤 210mL

4. 応急措置

- 吸入した場合 : 蒸気・ガスなどを吸い込んで気分が悪くなった場合は、空気の新鮮な場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。直ちに医師の指示をあおぐ。
- 皮膚(又は毛)に付着した場合 : 直ちに、すべての汚染された衣服を脱ぎ多量の水と石鹸で洗う。
汚染された保護衣を再使用する場合には洗濯をする。
皮膚刺激を生じた場合は、医師の診断/手当を受ける。
- 目に入った場合 : 直ちに清浄な流水で十分に洗い流し、次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外す。その後も洗浄を続け、最低 15 分間以上洗浄し、医師の手当てを受ける。
- 飲み込んだ場合 : 誤って飲み込んだ場合には、安静にして直ちに医師の診断を受ける。
嘔吐物は飲み込ませない。医師の指示による以外は無理に吐かせない。

5. 火災時の措置

- 消火剤 : 粉末、炭酸ガス、泡沫、乾燥砂などの消火剤を使用する。
- 使ってはならない消火剤 : 棒状水の使用は、火災を拡大し危険な場合がある。
- 特有の消火方法 : 火災の現場にエアゾール容器があると破裂する恐れがあるので、消火活動には距離を充分とること。
初期の火災には、粉末、炭酸ガス、泡沫、砂などを用いる。水の使用は、火災を拡大し危険な場合があるので、周囲への延焼防止か冷却に使用する。
燃焼による可燃性ガス、有毒ガスなどの発生、酸欠、高温になる恐れがあるため適切な保護具を使用する。
風下に人を近づけない処置を行い、退路を確保の上、風上より消火活動を行う。
延焼を防ぐため、安全を確保の上、周囲の可燃物を除去する。
火災規模に応じて、消火活動に危険を伴う場合は、速やかに退避する。
- 消火を行う者の保護 : 消火作業の際は、適切な空気呼吸器、防火用保護具を着用する。

6. 漏出時の措置

- 人体に対する注意事項
保護具及び緊急時処置 : 必要な部署に通報し、応援を求める。
漏洩区域は、関係者以外の立入りを禁止する。
作業の際には、適切な保護具(保護手袋、保護マスク、ゴーグル等)を着用する。
室内では換気をしっかり行う。屋外の場合は、出来るだけ風上から作業を行う。
着火源・高温体及び付近の可燃物を取り除く。
着火した場合に備えて、適切な消火器を準備する。
- 環境に対する注意事項
封じ込め及び
浄化の方法及び機材 : 河川、下水、土壌等に流出されないように注意する。
漏洩物は、密閉できる空容器等に回収し、安全な場所に移す。
付着物、廃棄物などは、関係法規に基づいて処置する。
少量の漏洩物は、必要に応じて乾燥砂、土、その他の不燃性のものに吸収させて回収する。大量の流出には盛土で囲い流出を防止する。密閉できる空容器等に回収し、安全な場所に移す。
衝撃、静電気にて火花を発生しないような材質の用具を用いて回収する。
- 二次災害の防止策 : 周辺の着火源となるものを速やかに取り除く。

排水溝、下水道、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

- 技術的対策 : 「8. ばく露防止及び保護処置」に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。
- 局所排気・全体換気 : 「8. ばく露防止及び保護処置」に記載の局所排気、全体換気を行う。
- 安全取扱注意事項 : 周辺での火気、スパーク、高温物の使用を禁止する。
換気の良い場所で作業を行う。
火気厳禁・静電気・衝撃火花などによる着火源の生じないように注意する。
漏洩させないようにするとともに、みだりに蒸気を発生させない。
吸入・接触による災害を避けるために必要に応じて適切な保護具を着用する。
中毒・酸欠防止のために適切な排気用の換気設備を使用する。

接触回避
保管

- 接触回避 : 「10. 安定性及び反応性」を参照
- 保管 : 漏洩の防止。換気の良い涼しい所に保管する。
熱、静電気、火花などの着火源から離して保管する。
雨水・直射日光を避け、錆の発生しやすい所に置かない。

その他

- エアゾール製品は、さらに次の注意が必要である。
高圧ガスを使用した可燃性の製品であり、危険なため下記の注意を守ること。
1) 炎や火気の近くで使用しないこと。 2) 火気を使用している室内で大量に使用しないこと。
3) 高温にすると破裂の危険があるため、直射日光の当たる所や火気等の近くなど温度が 40 度以上となる所に置かないこと。 4) 火の中に入れてはいけないこと。 5) 使い切って捨てること。

8. 暴露防止及び保護措置

化学名 (成分名)	管理濃度	許容濃度		
		日本産業衛生学会	ACGIH (TWA)	
内容液	炭化水素油 A	設定なし	記載なし	1, 200mg/m ³ {165ppm (メカ推奨値)}
	炭化水素油 B	設定なし	記載なし	記載なし
	可塑性溶剤 A	設定なし	記載なし	記載なし
	可塑性溶剤 B	設定なし	記載なし	記載なし
	グリコールエーテル	設定なし	記載なし	10ppm
	非イオン界面活性剤 A	設定なし	記載なし	記載なし
	非イオン界面活性剤 B	設定なし	記載なし	記載なし
	非イオン界面活性剤 C	設定なし	記載なし	記載なし
	蛍光染料	設定なし	記載なし	記載なし
噴射剤	DME (ジメチルエーテル)	設定なし	記載なし	記載なし

- 設備対策 :
 - ・取扱い場所の電気機器は防爆構造とし、静電気放電に対する予防処置を講ずる。
 - ・気中濃度を推奨された許容濃度以下に保つために、発生源の密閉化、排気装置 (局所排気装置、場合により全体換気装置) を付けて、蒸気が滞留しないようにする。
 - ・取り扱い場所近くには、眼の洗浄及び身体洗浄のための設備を設置する。
- 安全管理 : 必要に応じて適切な保護具を着用する。
- 保護具
 - 呼吸用の保護具 : 換気が不十分な場合には、適切な呼吸器保護具を着用する。有機ガス用防毒マスク、必要に応じて送気マスク、空気呼吸器を着用する。
 - 手の保護具 : 適切な耐油性の保護手袋を着用する。
 - 眼の保護具 : 適切な保護眼鏡を着用する。
 - 皮膚及び身体保護具 : 適切な保護衣、顔面保護具を着用する。
- 衛生対策 : 取扱い後は、汚染箇所をよく洗う。

9. 物理的及び化学的性質

[内容液]

- ・外観 : 黄緑色油状液体
- ・臭気 : 石油系の臭気
- ・沸点 : 180°C以上
- ・融点/凝固点 : -10°C以下
- ・蒸気圧 : データなし
- ・引火点 : 70°C以上
- ・爆発限界 : データなし
- ・密度 : 0.910 (20°C)
- ・溶解度 : 水に白濁、イソノール、エーテルに可溶。
- ・揮発性 : データなし
- ・発火点 : 200°C以上 (推定値)
- ・粘度 : 6.1mm²/s (37.8°C)

[噴射剤]

- ・外観 : 無色気体
- ・臭気 : 特徴的な臭気
- ・沸点 : -23.6°C
- ・爆発限界 : 3.4~26.7vol%
- ・蒸気密度 : 1.6 (空気=1)
- ・比重 (液体) (20°C) : 0.67

- ・融点/融点 : -141.5°C
- ・蒸気圧 : 0.41kPa (20°C)
- ・引火点 : -41.1°C
- ・溶解度(水) : 7.0g/100ml (18°C)
- ・発火点 : 350°C

10. 安定性及び反応性

[内容液]

- 安定性 : 常温常圧下では化学的に安定である。
- 危険有害反応可能性 : 強酸化剤と激しく反応し、火災や爆発の危険をもたらす。
- 避けるべき条件 : 高温、強酸化剤との接触、熱、スパーク、火気等の発火源を避ける。
- 混触危険物質 : 強酸化剤
- 危険有害な分解生成物 : 燃焼により、一酸化炭素、二酸化炭素などを発生する。

[噴射剤]

- 安定性・反応性 : 通常の手扱いにおいては安定である。

11. 有害性情報

化学名(成分名)	急性毒性	
	経口・経皮毒性	吸入毒性
炭化水素油 A	LD50 >5,000mg/kg(経口ラット)	データなし
炭化水素油 B	経口 GHS 分類は区分 4 以上	データなし
可塑性溶剤 A	LD50 20.5mL/kg(経口ラット)	データなし
グリコールエーテル	LD50 5,660mg/kg(経口ラット)	LD50 2,764mg/kg(経皮ウサギ)
非イオン界面活性剤 A	経口 GHS 分類は区分 4 以上	経皮 GHS 分類は区分 4 以上
蛍光染料	LD50 ≥5,000mg/kg(経口ラット)	データなし
DME	経口・経皮毒性 : データなし	吸入毒性 LC50 308mg/L(ラット)=163,424ppm

- 急性毒性(経口) : 区分外
- 急性毒性(経皮) : 区分外
- 急性毒性(吸入:蒸気) : 区分外
- 皮膚腐食性及び皮膚刺激性 : 区分外
- 眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性 : (非イオン界面活性剤 A, B)区分 1 に分類される等に基づき、本液においては区分 1 とした。
重篤な眼の損傷
- 呼吸器感作性/皮膚感作性 : 分類できない。
- 生殖細胞変異原性 : 分類できない。
- 発がん性 : 分類できない。
- 生殖毒性 : 分類できない。
- 特定標的臓器毒性(単回ばく露) : (DME)「高濃度で吸入すると麻酔や意識喪失などを起こすことがある」との記載に基づき、本液においては区分 3 とした。
眠気又はめまいのおそれ
- 特定標的臓器毒性(反復ばく露) : (グリコールエーテル)区分 1 の呼吸器、肝臓の分類の記載と、本液中に 10%未満により、区分 2 とした。
長期にわたる、又は反復ばく露による臓器(呼吸器、肝臓)の障害のおそれ
- 吸引性呼吸器有害性 : エアゾールは、ミストの状態では噴霧されるので、通常はこの項における液体に該当しないため、区分外とした。

12. 環境影響情報

- ・GHS 分類では、水生生物に毒性、長期的影響により水生生物に毒性。
- ・漏洩、廃棄などの際には、環境に影響を与える恐れがあるので、取扱いに注意する。特に内容物や洗浄水が地面、川や排水溝に直接流れないように対処すること。

水生環境有害性(急性)	: 本液中に区分 1 の成分を 15%以上 25%未満含有していることに基づき、本液においては区分 2 とした。
水生環境有害性(長期間)	: 本液中に区分 1 の成分を 5%以上 10%未満含有していることに基づき、本液においては区分 2 とした。
オゾン層への有害性	: 分類できない。

*本製品の分解性データはありません。

13. 廃棄上の注意

- 残余廃棄物、汚染容器及び包装の記述とその安全な取扱いに関する情報 :
 - ・内容物、容器の廃棄物は、許可を受けた産業廃棄物処理業者と委託契約をして処理をする。
 - ・空容器は、安全に配慮し内容物を完全に除去してから処分する。

- ・容器、機器装置等を洗浄した廃水等は、地面や排水溝にそのまま流さない。
- ・廃水処理、焼却などにより発生した廃棄物についても、廃棄物の処理及び清掃に関する法律、及び関係する法規に従って処理を行うか、委託をする。
- ・廃棄物の処理を委託する場合、処理業者等に危険性、有害性を十分告知の上で処理を委託する。
- ・使用後を含めて、不用意に穴を開けたり燃やしたりしないこと。

14. 輸送上の注意

- | | | |
|-------------|----------------|---|
| 国際規制 | ・国連分類 | : クラス 2.1 (引火性高圧ガス) |
| | ・国連番号 (UN No.) | : 1950 (エアゾール) |
| | ・容器等級 | : ー |
| | ・品名 | : エアゾール |
| | ・海上規制情報 | : IMO の規定に従う。 |
| | ・航空規制情報 | : ICAO/IATA の規定に従う。 |
| 国内規制 | ・陸上規制情報 | : 消防法ほか法令の規制に従う。 |
| | ・海上規制情報 | : 船舶安全法の規制に従う。 |
| | ・航空規制情報 | : 航空法の規制に従う。 |
| 緊急時応急処置指針番号 | | : 126 |
| 特別の安全対策 | : | <ul style="list-style-type: none"> ・容器に漏れの無いことを確かめ、転倒、落下、損傷がないように積み込み、荷崩れ防止を確実にを行う。 ・「7. 取扱い及び保管上の注意」記載の一般的注意に従う。 ・消防法の第 4 類第 3 石油類の取扱いを行う。 ・関連法規に基づいて輸送する。 |

15. 適用法令

- | | |
|-------------------------|---|
| ・消防法 | : 危険物第 4 類第 3 石油類 (非水溶性液体) 危険等級Ⅲ |
| ・労働安全衛生法 | : 表示対象物質 (法第 57 条、施行令第 18 条第 1 号別表第 9) |
| | : シ ⁺ エフリング ⁺ リコルモノ ⁺ フェニル |
| | : 通知対象物質 (法第 57 条の 2、施行令第 18 条の 2 別表第 9) |
| | : シ ⁺ エフリング ⁺ リコルモノ ⁺ フェニル |
| | : 危険物 (施行令別表第 1): 可燃性のガス |
| | : 有機溶剤中毒予防規則: 該当しない |
| | : 特定化学物質等障害予防規則: 該当しない |
| ・毒物及び劇物取締法 | : 該当しない |
| ・化学物質排出把握管理促進法 (PRTR 法) | : 該当しない |
| ・危険物船舶運送及び貯蔵規則 | : 引火性高圧ガス (クラス 2.1) |

16. その他の情報

参考文献:

- ・独立行政法人 製品評価技術機構 (NITE) GHS 分類結果
- ・JIS Z 7252 : 2014 「GHS に基づく化学物質等の分類方法」
- ・JIS Z 7253 : 2012 「GHS に基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法ーラベル, 作業場内の表示及び安全データシート (SDS)」
- ・栄進化学(株)社内資料 (各材料メーカー提供の安全データシート)

責任の限定について:

- ・本記載内容は、現時点で入手できる資料、情報データに基づいて作成しており、新しい知見によって改正されることがあります。また、注意事項は通常の取扱いを対象にしたものであって、特殊な取扱いの場合には十分な安全対策を実施の上でご利用下さい。
- ・本文書の記載内容は、当社の最善の知見に基づくものですが、情報の正確さ、安全性を保証するものではありません。すべての化学品は、未知の有害性がありうるため、取扱いには細心の注意が必要です。ご使用者各位の責任に於いて、安全な使用条件を設定くださるようお願い申し上げます。